

神奈川大学資格教育課程通信

第41号

編集・発行 神奈川大学資格教育課程センター運営委員会

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎045-481-5661(代) 内2051

児童生徒と共に育つ学生、卒業生に学ぶ

人間科学部教授 古屋 喜美代



長年神奈川大学教職課程に携わるなかで、私が神奈川大学教職課程の強みだと感じる2点について述べます。
第1点、これまで多くの卒業生が教壇に立ち、教育の場で活躍してくれています。教職に就かなくても、社会福祉や子ども支援の場などで働く

卒業生がいます。学生時代に学校ボランティアを通して、児童生徒と関わりながら子どもたちの課題を肌で感じ取る学生は多くいます。学生たちがこれら縦のつながりに学ぶ機会を作っていることは教職課程の強みであり、私もそこから多くの学びを頂きました。
教職課程では、卒業生教員を迎え学生に向けて話を伺う機会を設けています。卒業生と連絡を取っていくと、教育現場に立つ若手教員は毎日が生徒との奮闘で時間に追われ

ていることを痛感します。それでも学生の前に立つと、彼らは後輩のために教育現場の魅力をしつかりと伝えてくれます。子どもへの心近づけるためにどんな努力をしているか、失敗をしながらも、子どもたちの成長にどれほど励まされているか、その熱い思いは学生たちを励ましてくれます。子ども一人一人に寄り添おうとする力は、本学の教職課程の学生・卒業生の皆さんに通底する力といえるところではないでしょうか。
教育実習後の4年生には3年生に向けて話をしてもらっています。3年生が来年の自分をイメージしていくためにも、教育実習や教員採用試験への不安にきちんと向き合うために、先輩4年生の姿は

「よきロールモデル」となってくれています。
若手として学級運営に悩みを持つ教員、中堅教員、ベテラン教員と一緒に、教職課程ミニシンポジウム(講演会)を企画したことがあります。教員としてどのように悩み葛藤を乗り越えながら成長しているのか、世代を超えて神奈川大学の卒業生が共に考える場を持ったことは貴重な学びの機会であったと思います。
第2点、教育実習や介護等体験など、学生をキャンパス外に送り出す教職課程は、教職課程の大学教員と資格教育課程課職員が密に連携して動くことを必須とし、チームとして動いています。
振り返ると教員免許状の課

程認定申請をめぐる、教職課程に激震が走った危機的状況がありました。全教員と事務局とが協力して何とか乗り越えた厳しい体験でしたが、これは教員、事務局が強くまとまっていく試金石となったと今では考えることができました。
私は、本年度をもって神奈川大学を退職いたします。長年共に学生指導に取り組んでまいりました大学の先生方、資格教育課程課の皆様に、心より感謝いたします。困難な課題ばかりが目される教育現場ですが、教育に関わる魅力が次世代に伝えていくことと、本学資格教育課程の更なる今後の発展を期待しております。

現場体験で希望を語りつづける力を育てたい

法学部特任教授 鈴木 英夫



神大ユースサポートプロジェクト(JYSP)では、教職を目指す学生たちに、教育の現場体験を提供し、ふりかえりを通して理解を深めさせています。具体的には、実務家のアドバイザーなどに支えられて、学校ボランティアと中学生対象の学習支援であるJIN-K

ANA学習塾の活動をしています。学生たちはこれらの活動から、短期間の教育実習からは得ることのできない「気づき」を重ねています。小さな「気づき」が蓄積されて、学生が自分の力で少しずつ成長していく姿に触れられるのは、指導している私たちの喜びです。
最近では、GIGAスクール、主体的で対話的で深い学び、ICTを活用した授業など、新しい言葉が空を舞っているようですが、JYSPで活動している学生たちは、今流行りの空を舞

い飛ぶ言葉ではなく、目の前の中学生たちの学びの前に立ちすくみ、なんと声をかけようか、どこから説明しようかと、懸命に考えて行動しています。
「教えるとは、希望を語ること。学ぶとは、誠を胸に刻むこと。」これは、私が教員になった時、先輩教員から教えてもらったルイ・アラゴンの詩の一節です。1982年に中学校で教員生活を始めた頃、学校は考えられないほど荒れていました。生徒は不信と憎しみの目で教師を見ていたし、私たちも中学生たちの荒ぶる心に振り回されていました。そんな学校で、先輩教員は生徒の未来を信じ、拒絶する生徒に懸命に語りかけ、私たち初任の教員にも、

「社会と子どもの未来を信じなかつたら、教育なんてできないよ。」と言葉をかけてくれました。現在の学校は新しい言葉や、新しい手法が次々おしよせて疲弊していると聞きます。一人悶々として、教材と格闘し、それを生徒にどうやって伝えようかと、授業内容を工夫する余裕がどれくらい残されているのか心配になります。
大村はまの「教えるということ」に仏様の指という話が載っています。ぬかるみにはまり込んだ荷車を一人の男が懸命に引き出そうとしているがびくとも動かない。それをしばらく見ていた仏様がそっと指で押すと、荷車はスッとぬかるみをぬけだし、男はカラカラ

と荷車引いて行ったという話です。大村は、男は仏様が手伝ってくれたことを知らない。仏様に守られた自分がいること知ったらそれはそれで幸福感に満たされるだろうが、自分の力で荷車を引き上げたという自信のほうが生きていく力になると思える、と述べています。子どもに感謝されるのではなく、子どもが自分の力で学び取ったという自信を与えられるようなそんな教師でいたいという大村はまの決意の話です。
これからくる社会と子ども一人ひとりの未来を信じ、教材と格闘し、子どもの前に立ちすくむ教師の底力を大学で育てられたらいいな、と思うこのごろです。

表2 2023年度教員採用試験合格者数

	在學生		卒業生	
	本登録	内諾	本登録	内諾
法学部	1	0	0	0
経済学部	1	0	0	0
経営学部	0	2	0	0
外国語学部	4	4	0	0
国際日本学部	5	5	0	0
人間科学部	2	5	0	0
理学部(大学院生含む)	14	7	0	0
工学部	0	1	0	0
計	27	19	0	0

表1 2023年度教職課程登録者・内諾者・教育実習者数

	1年次		2年次		3年次		4年次		大学院	科目等履修生			
	仮登録	本登録	本登録	内諾	本登録	内諾	本登録	内諾		本登録	本登録	内諾	実習
法学部	74	20	1	14	1	0	11	0	0	0	0	0	
経済学部	71	35	1	27	0	5	17	0	0	0	0	0	
経営学部	28	10	0	6	0	0	2	0	0	0	0	0	
外国語学部	51	24	1	29	0	1	16	0	0	0	0	2	
国際日本学部	32	21	0	6	0	1	18	0	0	0	0	0	
人間科学部	98	44	0	34	2	0	29	0	0	0	0	1	
理学部	101	63	2	33	0	0	40	1	0	0	0	1	
工学部	43	17	1	15	1	1	15	0	0	1	0	0	
建築学部	8	1											
化学生命学部	35												
情報学部	28												
計	569	235	6	164	4	8	148	1	0	1	0	4	

注：1.「内諾」は2024年度教育実習の「内諾依頼許可者数」を示す。
2.「実習」は2023年度教育実習の「実施者数」を示す。

2023年度各種課程活動報告

教職課程

活動は多岐に渡りますが、次の4点についてご報告します。

JYSP

(神奈川大学ポートプロジェクト)

JYSPでは、大きく2つの事業、すなわち、学校ボランティアとJIN・KANANA学習塾(学習に困難を抱える中学生への学習支援)における現場体験を教職希望の学生に提供しています。

鈴木英夫法学部特任教授(責任者)と学習アドバイザー2名(実務家教員)が学生の指導・支援に当たっています。前述の事業に加えて特筆すべきは、JYSPの事務局では学習アドバイザーの先生方が、学生からの採用試験、学校ボランティア、進路等の多岐にわたる相談に対応いただいていることです。

神大教員ネットワーク

(神奈川大学同窓教員ネットワーク)

2023年8月9日(水)に「神大教員ネットワーク若手教員の集い」がみらいキャンパスで開催されました。今回は、原亜由美先生(2018年英語英文学科卒)、飛田梨沙先生

(2019年英語英文学科卒)、関口達雄先生(2015年経済学科卒)の3先生にそれぞれ学校現場で経験された事例報告をしていただき、その後、3グループに分かれてグループ討議が行われました。グループ討議は2部構成で、第1部では、報告者から他の参加者に聞いてみたい課題を提起してもらい、その課題についてグループで自由に討議し、第2部では、参加した若手教員から当面する課題を挙げてもらい、課題解決の糸口について参加者で自由に討議しました。それが終了したところで各グループより討議の概要報告がされ、討議の成果を参加者全員で共有しました。

教員採用試験対策

2022年度同様、安部賢一人間科学部特任教授のご指導のもと、様々な教員採用試験対策が実施されました。しかし、2023年度になり、教員採用試験をめぐる状況が以前とは変わりました。文部科学省が2022年12月19日に示した「教員採用試験選考早期化・複線化」の答申への対応が迫られたからです。この方針によれば、2024年度から教員採用試験選考期日と合格発表をこれまで

教育研究交流会

2024年2月17日(土)に「2023年度神奈川大学教育研究交流会」が横浜キャンパスで開催されました。第1部では、本学の教職課程を30数年にわたり支えてくださった古屋喜美代人間科学部教授に講演を行っていただきました。教職課程の大黒柱として確固たる足跡を残された先生らしく、語る言葉には説得力があり、聴衆は聞き入っていました。第2部では、JYSPで学校



教育研究交流会 人間科学部・古屋教授「退職記念最終講義」の様子

ボランティアやJIN・KANANA学習塾でボランティア活動を行なっている学生の体験報告とそれを基調としたグループ討議が行われました。討議に参加したのは、JYSPで活動している学生、近隣学校等の関係者、学校教員経験者、卒業生教員、本学教員等です。多様な視点から意見や質問が交わされる学び合いの時間となりました。

大西 勝也

社会教育課程

社会教育課程(通称・社会)は、ひととまちなをつなぐ、「ソーシャルコーディネーター」の人材育成を目的としています。13科目26単位の修了で、「社会教育主事」任用資格と「社会教育士」(称号)の2種の証書

を得ることができ、神奈川大学社会教育課程では、2023年度現在、93名(横浜キャンパス60名、みらいキャンパス33名)の登録者が在籍しています。2023年度も皆様のお力添えで、沢山の実践的授業の展開を行いました。詳細は神奈川大学公式ホームページの「社会教育課程」をご覧ください。

前期では、共通教養科目「生涯学習論」を100名以上の学生が履修しました。ソーシャルコーディネーター力を養う実践的な授業の一端を紹介します。

①「地域デザイン演習Ⅰ」では、小田原市で森のワークキャンプ、横浜市役所見学や寿町の歴史や現状などの学びを深めました。

②「地域デザイン演習Ⅱ」では、生きづらさを抱える子どもたちの居場所について討議を重ねました。川崎市子ども夢パークでは、恒例の「夢パまつり」で実習をしました。(7月22日・23日)

③「地域デザイン演習Ⅲ」では、シブヤ大学と合同で5講座の学生企画を行いました。(12月10日・16日)

④「地域デザイン演習Ⅳ」では、「かながわユースフォーラム」の企画運営を学生が行いました。(7月1日)また区役所や社会福祉協議会、地域ケアプラザ、町内会など、地

学芸員課程

齊藤 ゆか

域で実践力を高める場の提供を頂きました。⑤「社会教育実習」では23名の学生が、自治体(栃木県宇都宮市、静岡県駿東郡長泉町等)や青少年教育施設での実習を行いました。2023年度も非常勤講師の先生方をはじめ、多数の自治体や団体の方々にお世話になり、心からお礼申し上げます。

創立100周年に向けた改革を進める本学は、今年度より横浜キャンパス(YC)・みらいキャンパス(MMC)の2キャンパス体制をスタートさせました。これを受けて、希望するすべての学生が学芸員資格を取得できるよう、両キャンパスで学芸員課程教育を開講することとなりました。

本学の学芸員課程の特色のひとつは、博物館実習が2科目あることです。YC所属の3年次生が履修する「博物館実習Ⅰ(自然史・文化史資料実習)」では横浜・六角橋を紹介する写真展や平塚沖で採集された生物試料による実習を、MMC所属の3年次生が履修する「博物館実習Ⅱ(古文書・民俗資料実習)」では日本常民文化研究所が所蔵する古文書や民俗資料を取り扱う実

日本語教員養成課程

関口 博巨

2023年度は6名の4年次生が日本語教育実習を終え、日本語教員養成課程を修了しました。日本語教育実習では、飛鳥学院と川崎市ふれあい館にご指導を賜りました。厚く御礼申し上げます。

修了者のうち1名が日本語学校専任教員、1名が日本語教育分野を有する専門学校職員として就職しま

す。パンデミック収束後、日本国内の在留外国人は急増し、2022年度末日には322万人となりました。留学生の来日も増加し、現在は日本語教員不足の状態にあります。文化審議会国語分科会(2018年・2019年)において、「生活者としての外国人」「留学生」「児童生徒等」「就労者」「難民等」「海外」の6領域が日本語教育人材の活動分野として示されました。日本語教員養成課程の教育目標は、この多岐にわたる領域の共通基盤となる日本語教育能力を培うことにあります。

2024年度は大きな変革の年となります。日本語教員養成課程のキャリアアップの改訂、実習予定者の増加(16名)があり、現在新たな実習校を依頼しつつあります。国家レベルの変革として、2024年度から日本語教員の国家資格(登録日本語教員)が創設されます。これに伴い、日本語教員養成課程も文部科学省の認可を受けることとなります。

日本語教育は国際情勢、国内の社会構造に伴い進展し続けます。国境を越えた人の移動の活発化、日本国内の少子高齢化に伴い、日本語教育の必要性は今後もますます高まるものと考えられています。時代の変化に柔軟に対応できる課程を目指していきます。

富谷 玲子

2023年度 教職課程教育実習記録より

2023年度、教職課程では全国の中学校・高等学校の協力のもと、152名が教育実習を行いました。実習生は「教育実習記録」に、実習中の出来事を振り返り、気づきや学びをまとめています。実習校の先生方からは温かいご指導・助言を記載していただいています。実習生の声と先生方からの助言を抜粋して紹介します。

◆様々な先生の授業を見ることで、それぞれの先生が自分の授業の進め方を確立し、進め方はそれぞれであると感じました。授業をしているクラスの理解度や雰囲気に合わせて発問を多くしたり、演習時間を長く取ったりと、同じ先生でも異なった方法で授業をされていることがとても参考になりました。

(理学部)

◆目的意識をもった授業の重要性を痛感しました。授業を組み合わせるとすると、どのような授業にするかに目が向いてしまいました。しかし、なぜこの活動であるのかについて常に考える必要があります。発問についても、なぜその問いを投げかけるのかという「なぜ」に目を向けて考える必要がある、目的をもった授業にすることが課題でした。

(国際日本学部)

◆1000の知識を身につける

社会教育実習を終えて 関わる人すべてを笑顔にする社会教育

国際日本学部歴史民俗学科 3年 伊藤 千夏

一般財団法人日本青年館で8月から11月に11日間の社会教育実習を行いました。日本青年館は100年の歴史がある青少年活動を応援する場です。実習では日本青年館の土台を作った「全国民俗芸能大会」の事業に参画しました。大会の準備から運営、そして出演団体の見送りまで数多くの方々と出会い、責任ある大きなイベントに緊張感を持って行動することができました。職員の方から「社会教育はマルチタスクが要」と助言を頂き、あるときは「ファシリテーター」をし、またあるときは「来場者や出演団体へのもてなし」をするなどその都度、頭を切り替えて事業に打ち込む職員の姿勢はとても勉強になりました。

また実習中に私が「大学や高等学校に宣伝チラシを送ってみたいかどうか」と提案し、案内を送付したところ、昨年の大会よりも若い世代が来場していました。私の提案により若い世代の来場者増員に繋がったのであれば非常に嬉しく思います。今回の実習を通じて、関わってくれの人を「どれだけ笑顔にさせられるか」、これが社会教育の仕事なのだと考えます。貴重な機会を頂き心から御礼申し上げます。

100を授業で出すことが余裕につながり、残りの900が深みになると感じました。マンガやアニメなど生徒がもともと持っている土壌に授業内の知識の種を植えて伸ばしていくという技術は参考になる部分が多くあったため、自分のものとして使えるようになっていきたいと思います。

(経済学部)

◆授業実習を重ねていくにつれ、教師の気持ちや技術だけでは授業は成り立たず、教師と生徒との信頼関係によって成り立っていることを実感しました。より良い関係が築ければ授業中に自ら発言があり積極的に活動が行われ、授業を展開していくことができました。このことから授業の主役が生徒一人ひとりであることを改めて感じました。

(理学部)

博物館実習を終えて 橋渡し役も知ってほしい

理学部生物科学科 4年 小林 達

例年通りの暑さに見舞われた夏、私は学芸員課程の集大成として千葉県立中央博物館で博物館実習を行いました。この博物館は千葉県の自然史・人文史を中心に展示している博物館で、多くの生物標本や化石標本、土器などが収蔵されています。今回の実習を通して学んだのは、学芸員の仕事は多岐に渡り、展示のみを行うわけではないことです。例えば展示を行うにも、まずは展示の方向性や伝えたいことなどのコンセプトをまとめ、資金を確保します。次に展示に向けて資料収集や展示デザインし、集客を行います。展示期間中はそれらを全て管理します。また、それと同時に博物館に舞い込んでくる新たな資料の分析や管理、研究を行います。このような学芸員の方のお話を聞くと、果たして自分に務まるのかと疑問に思う反面、楽しそうにお話をされている姿を見て、きっと楽しいだろうと期待に胸を躍らせる自分もいました。

学芸員の仕事はこのように博物館での研究活動と展示を行うことでの学問の普及がメインですが、私は今回の実習を通して学んだ学芸員の仕事の重要性や楽しさもそれらと同時に知って欲しいと思いました。そのためにもまずはしっかり学芸員になりたいと思います。

◆教育実習は楽しいことばかりではなく、大変なことも多くありました。そのたびに、自分は教員に向いていないかもしれないと思う日もありましたが、それ以上に生徒と関わる時間が非常に楽しかったです。生徒の顔を思い浮かべながら授業準備をし、自分だけが

◆周りの生徒や先生方とこまめにコミュニケーションを取ることが大事です。授業は自分ひとりでは成り立ちませんし、学校も仲間との協力無くしては良くありません。今後周囲と力を合わせて学び続けていってください。

(高校・英語科)

◆グループで活動に取り組み際には、時間を「〇分まで」

指導教諭指導・助言欄より

(外国語学部)

たらどうかということを考えてながら過ごしてきました。頑張った準備をして、「分りやすすくて楽しかった」など、嬉しい言葉を言ってくれる生徒を目にして非常に感動し、教育実習にいられて良かったと思うことができました。

と決めてしまったり、全員が理解していそうな部分は答えだけ確認して次に進んだり、メリハリをつけた展開にしていくと良いと思います。ポイントと先生が答えを出すのを待っていたり、考えずに違うことをしている生徒が多くなったりすると、どうしても時間を無駄にさせてしまっている印象が残ります。先生が

生徒の学習の邪魔をしないようなスピード感を心掛けたいですね。

(高校・数学科)

◆絵画・映像など視覚教材は、見て聞いて楽しいものです。ただし、情報は豊富で時に生徒は消化できずにいます。授業者の意図が適切に伝わるように取捨選択して提示する必要があります。そのためにも教材研究を深めることが求められます。

(高校・地歴科)

◆授業づくりに対して、より良い授業を目指し妥協することなく研究を続けていきました。この研究に取り組み姿勢が立派だと思えます。研究熱心な姿勢は、周りから認められ信頼を勝ち取る土台となっていくと思います。

(中学・社会科)

日本語教育に必要なスキル

国際日本学部国際文化交流学科 4年 西田 朱里

横浜市の飛鳥学院で5日間の教育実習を行いました。授業を見学させていただいた際に、同じ初級レベルでも、クラスによって授業の進め方が違うことに驚きました。同じ様な授業をしているクラスは、一つもありませんでした。そのことについて飛鳥学院の先生は「同じ文型でも、クラスによって教え方を変えている。去年はこの教え方でうまくいったけれど、今年はどうもいかない」ということがよくある。でもそこが面白いところ。」と笑顔でおっしゃっていました。ゴールがないことを楽しみ、学生にとって最も有効なアプローチはどれなのかを分析することが、日本語教師に必要なスキルなのだと思います。そこで、一度目の教壇実習で感じたクラスの特徴を考慮し、二度目の教壇実習の際には学生とのコミュニケーションの時間を長めにとることにしました。時間は少々オーバーしてしまいましたが、いい授業が出来たと思っています。私は春から日本語教師になります。不安なこともありますが、楽しむ心を忘れずに、笑顔で精一杯頑張りたいです。



神奈川大学 心理・教育研究論集

発行 神奈川大学教職課程研究室

第54号

第55号



論文

- ・ソーシャル活動につながるインセンティブの検討 齊藤 ゆか・寺嶋 正尚・中島 さえ
- ・国語科 CR メソッドの開発に向けた指導法の検証 (1) マクロ・アプローチを中心として 澤口 哲弥
- ・道徳科における教材の開発・活用可能性について 「トロッコ問題」を例として 田中奈津子
- ・学校理科教育現場における事故事例とその対策 (5) 長島 宏希・加部 義夫
- ・Singularity 以後の未来を見据えた算数・数学教育の設計 理念創出に向けて 根上 生也

研究ノート

- ・ナナメの関係が育む心の豊かさ 一中学校における学校ボランティアを活用した学習支援の取組を通して 山下 昌永
- ・学齢超過者の義務教育機会保障に関する法制化後の課題―夜間中学の設置促進政策の検討― 安部 賢一
- ・「有理数の性質」と「鳩ノ巣原理」 榎本 里志
- ・「現代的な諸課題」への理解を深める「歴史総合」の授業デザイン 一部道県議会の「ロシアによるウクライナ侵襲に抗議する決議」を資料に用いて 小宮 龍一
- ・高卒認定試験の研究と指導上の課題―「地理A」「地理B」の問題内容に着目して― 小宮 龍一
- ・中学校数学科の学習指導案作成上の留意点等について (3) 一数学的活動、ICTへの視点等 平田 治夫
- ・社会科教育法における板書指導 三崎 徹雄
- ・教職課程におけるハイフレックス型授業の実践と課題 一教科教育法授業における模擬授業を中心に― 吉岡 治一郎
- ・生徒の意欲を高める英語表現活動の工夫 萩原 一郎
- ・中学校における平和学習をどのように進めていくか―長崎への修学旅行を目的とした平和学習の実践― 間邊 浩二

論文

- ・中学校保健体育科体育分野における「学びに向かう力、人間性等」の指導と評価に関する研究 一指導内容が明示されたことによって顕在化した課題― 小林 力
- ・国語科 CR 授業構想マップの可能性 一探究する学びに導くあたらしい授業支援ツール― 澤口 哲弥
- ・高校生における保健学習ヘルスリテラシーの実態 一高校保健学習ヘルスリテラシー尺度作成より― 林 園子
- ・子どもが育つ現場からの学びと巡回相談 (コンサルテーション) という仕事 古屋喜美代
- ・教育相談の在り方と発展可能性に関する一考察―運動部生徒の事例を取り上げて― 百瀬谷美子
- ・教職課程を履修する大学生の教職観の変容―学生による教育課題のグループ研究を通して― 阿部 雅子
- ・学校理科教育現場における事故事例とその対策 (6) 長島 宏希・加部 義夫
- ・青年期におけるレジリエンス発達の研究 (第一報) 一レジリエンス尺度の分析― 益田亜矢子・蘭 千壽
- ・効果的な教育実習の実施に向けた方策―初任者教員へのアンケートをもとに― 山下 昌永
- ・在日外国人高齢者の健康・生活実態の解明と社会的支援―中国系住民に焦点をあてて― 姚 倩倩・齊藤 ゆか
- ・市民としての主体性を育てる社会科教育―公民的分野で学ぶ力を育てる― 鈴木 英夫
- ・インクルーシブ教育の実現に資するイメージ生成指導法の提案と国際評価 一米国ハワイ州と本邦の比較― 百瀬谷美子
- ・数学教育の指導観を変えることは期待できるか―教科書を使う観点から考察する― 伊藤 真人
- ・ADHD―その概観と指導・治療上の課題点― 原 英樹
- ・工業科の学習指導法について 一「工業技術基礎」における測定技術の指導に関する一考察― 後藤 博史・大熊 敬一
- ・バックワードデザイン (逆向き設計) を使った高校「英語コミュニケーションI」の授業づくり 萩原 一郎
- ・ボランティア・ワークキャンプを契機としたユースワークにおける学生の意識変容 磯田 浩司・仲山 友

後輩へのメッセージ ～教員・公務員採用試験合格者より～

神奈川県 中学校 国語 合格
「経験から得たもの」
国際日本学部日本文化学科 4年 清水 裕理

大学生活を振り返り、私にはやってよかったと思う経験と、もっと早くやれば良かったと思う経験があります。

やって良かったと思う経験は大学3年生の後期から行っていた、中学校でのボランティア活動です。生徒と触れ合う中で成長を感じ、先生方が生徒と真摯に関わる姿勢を学ぶ事ができ、この経験が教員になろうと思った大きな理由となりました。

もっと早くやっておけば良かったなと思うことは、「自分を見失わず、自分を最後まで信じる」とです。ボランティア活動や教育実習、教員採用試験などさまざまな場面で不安になったり悩んだりすることがありましたが、自分がこれまで積み上げてきたことを信じていることが大切だと感じました。

しかし、闇雲に自分を信じるのではなく、周りの人たちとの関係性の中で、自分を見つめることも重要だ

神奈川県 高等学校 英語 合格
「様々な経験を通して得た経験」
外国語学部英語英文学科 4年 北島 拓実

私が教員採用試験に合格できたのは、大学時代に、初めてのアルバイトや、経験したことがないスポーツでの部活動、そして英語教育ゼミといった様々な経験ができたからだと思います。

そこで関わった人たちと過ごしていく中で、私は自分1人では得られない貴重な経験をすることができました。この経験を教員採用試験2次試験の個人面接に活かすことができました。これらの経験をしたらこそ、

神奈川県 中学校 保健体育 合格
「結局は情熱」
人間科学部人間科学科 4年 座光寺 大樹

「もう先生じゃん！」私は、大学に入学して初めて先輩方の模擬授業を見たときにそう感じ、驚いた記憶があります。そんな先輩方を見て、目指す側ではなく目指される人間になろうという思いで努力を継続しました。

私は勉強が苦手な人とコミュニケーションをとることも得意ではないですが、教師になりたいという情熱は常に持ち続けていました。初めは、「授業をできる気がしない、試験に合格できる気がしない、生徒とうまく話せる自信がない、学習指導案って何を書くのか」など様々な不安を抱えていました。しかし、準備を怠ら

神奈川県 高等学校 数学 合格
「公立学校の教員になるためにしたこと」
理学部数理・物理学科 4年 小林 慶平

これを読んでくださる方へ向けて、一つ質問があります。なぜ教員を目指しているのでしょうか。この質問に自分なりの考えを持つことが教員になるために必要だと思っています。

さて、ここからは教員採用試験合格を目指している人のために簡単なアドバイスができます。まず、「教職教養」対策として、「教職教養」対策講座を受講することをお勧めします。講義や配布される冊子がとても役に立ちました。

横浜市 小学校 合格
「教育現場を通して学べること」
理学部情報科学科 4年 堀岡 瑠月

小学校でのボランティア活動の経験が、私が小学校教員を目指すきっかけとなりました。ポラントニア先の先生方を見てみると、「忙しそう」「大変そう」と思う場面はたくさんありましたが、子どもたちへのトラブルは頻りに起こる姿を見て、私も将来教員になって適切に対処できるのかという不安になることが多々ありました。

大学で、知識を身につけるだけでなく、学校ボランティアという貴重な経験をすることで子どもたちへの向き合い方や、支援の大切さなどに気付くことができました。皆さんも、学校ボランティアや教育現場での経験をを通して、自分が教員になりたいと思うきっかけや、教育に対する情熱を見つけることができるかもしれません。応援しています。

佐渡市 事務職 合格
「社会教育課程で培った力」
人間科学部人間科学科 4年 絞張 美波

私は2年生より社会教育課程を履修し、中でも「地域デザイン演習」と「社会教育実習」の授業で得られた経験は私が公務員という仕事を選ぶ上で大きな力となりました。

「地域デザイン演習」では、学内外の様々なフィールドの活動に参加し、課題解決に挑戦する行動力を身に付けることができました。行政やNPO、地域団体などの活動を通して関わった方々は多岐にわたり、多様なステークホルダーと協働した経験は公務員として働く上でとても役立つと思います。また、「社会教育実習」では、全国各地の社会教育施設で実習を行い、専門的な知識技能を修得しました。私は地元の市役所の社会教

新型コロナウイルスの流行時に入学をした学生たちが、無事卒業を迎えることができました。先んきが見えない状況の中で、多くの学生たちが自らの道を切り拓いていきました。この経験を胸に、卒業後はそれぞれが新しい場所で活躍していくことを願っています。4年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！
望月耕太

編集後記

2023年度 資格教育課程センター 運営委員会名簿

- 委員長 大西 勝也
- 【教職課程】 関口 昌秀 (教職課程)
- 副委員長 関口 博巨 (学芸員課程)
- 【教職課程】 荻野 佳代子
- 加藤 美智子
- 古屋 喜美代
- 間山 広朗
- 安部 賢一
- 鈴木 英夫
- 鈴木 そよ子
- 望月 耕太
- 【社会教育課程】 齊藤 ゆか
- 【学芸員課程】 安室 知
- 山本 志乃
- 角南 聡一郎
- 丸山 泰明
- 廣田 律子
- 佐藤 たまき
- 富谷 玲子
- 【日本語教員養成課程】
- 担当事務職員
- 【資格教育課程課】 小川 繁弘
- 渡邊 和佐
- 佐武 亜紀子
- 加瀬 美鈴
- 提水流 勇
- 庭野 真帆